◎東京の失業者を山梨縣で救濟

世界の失業者は概數、一千七百萬人以上に達するであらうと云ふ統計に於ては、アメリカ合衆國の五百萬人、ドイツの三百五十萬人、イギリスの二百萬人を始めとして、日本及南アメリカの失業者を各百萬人と算へてゐる。內務省社會局の發表による本年四月一日現在の、日本の失業者推定數は、俸給生活者七萬八千六百人、日傭勞働者十三萬五千三百人、其他の勞働者十五萬八千二百人、合計三十七萬二千百人となる、が此の調査に於ての失業者は「就業の能力及意志を有するに拘らず就業の機會を得ざる狀態」にあるものゝみに限り、學生其の他の無業者、雇主、自營者、實收二百圓以上の給料生活者、藝娼妓、酌婦、仲居等を除外し又同じ失業者であつても、老衰者、傷病不具者、酒亂又は怠惰等の惡癖があつて就業に適せない者、任意の不就業者、浮浪者にして自ら求職の途を講じない者、同盟罷業又は工場封鎖のため就業しない者、失業當時の業務に比べて收入及其の他の點に於ては不滿足であつても現に就業の機會を得てゐる者は、失業者の數から除外してゐる、だから實際の失業者は恐らく百萬人をも超へて、正しく失業者五大國の列に加つて居るであらうことは、恥しい、否な悲慘此の上もない失業相である。

今や世界各國は擧げて失業の對策に腐心し、政治的に將亦經濟的に、刻下社會の一大問題であることは今更言を要せないところである。日本に於ける「失業救濟」は、歐洲大戰後の沈衰期に入つた吾國經濟界は、大正十二年の大震災の影響を蒙つて、一層不況の色を增すと共に各方面に、失業者を增加するに至つた。殊に失業の第一線に立つた日傭勞働者の中には、生活上窮迫に陷るもの夥しく、ために

失業防止運動が各地に續發して來た。玆に於て時の政府は之が對策として、大正十四年の冬季を期して失業者の最も多い、六大都市關係の公共團體をして、失業救濟を目的とする公營事業を起興せしめ、(一)其の起債に對しては從來採り來れる地方債許可方針の例外を認め、(二)其の事業費の內勞働賃銀に對しては國庫より二分の一以內を補助する、の方針を樹てたのに始つたもので今に始つた事新しい施設ではない。

大正十四年度に於ける、六大都市及大阪府の失業救濟事業費の總額は、五百七十七萬六千七十一圓で其の內百七十八萬五千六百八十四圓の勞力費に對し政府は八十九萬二千八百二十四圓（勞力費の二分の一）の補助金を交付せられた。當時の失業者は全國に於て、三萬六千四百九十九人であつた。昭和元年度、昭和二年度、昭和三年度に於ても同樣の救濟事業は續けられた、が此の三ケ年間に於ける失業者の數は、はつきりした統計のないと共に救濟事業としても漸次減少して、昭和三年度に於ける六大都市及神奈川縣の事業費總額は僅に、二百七十五萬七千八百三十二圓にして、失業救濟事業開始當初の、大正十四年度に比べて半分以下に過ぎなかつた。此の現象は少くも當時の財界は相當好況に立返つて居つた、と云ふことを證明することが出來るではなからうか。

然るに、昭和四年の春から不景氣は疾風の勢をもつて押寄せ、失業者の數は一躍して三十萬人を突破した。或は百萬人、否二百萬人をも超へてゐるだらうと云ふものもある、而して昭和四年度に於ける失業救濟事業は、六大都市及都市附近の既定事業にして、失業救濟のため特に起債を許可せられる事業費の總額七百六十六萬六千五百七圓、又失業救濟の爲新に起興したる事業にして、國庫補助を得たる事業費の總額六百九十一萬九千五百六十三圓、此の合計一千四百五十八萬六千七十圓にして、昭和三年度の二百七十五萬七千餘圓に對し實に五倍餘となり、國庫の補助も百十萬三千五百餘圓の多きに達し昭和三年度の二倍に增加した。この不景氣の襲來、失業者の簇出は獨り日本丈の問題では

なくして、全世界の問題である、と云ふのは英國勞働黨內閣の失業救濟大臣エツチ・トーマス氏は昨年十一月、四千二百萬ポンドを以て、百四十萬の失業者を救濟し得ると聲明したが、二百萬を超ゆる失業者をば如何ともしがたく遂に、失業救濟大臣を辭職したと云ふことである。ドイツは、一九二九年に於ける百七十二萬三千の失業者は、一九三〇年に入つて三百五十萬人に激增した、之がため本年度の失業救濟費總額は二十億マークに達する、と云ふことである。アメリカは、昨年十月末の株式大恐慌により財界が大打撃を受けて以來、恐慌直前に於ける二百五十萬乃至三百萬の失業者は五百萬乃至六百萬に激增した。ために之が救濟未だ徹底せず、たゞ景氣の更正をまちつゝありと云ふことである。

緊縮政策、非募債主義の現內閣も、洪水の溢れるが如く滔々として簇出する失業群救濟のためには、漸次從來の緊縮制限を緩和して、「六大都市關係公共團體其の他救濟を要すべき失業者多き地方」のみに限られてゐた。起債の許可勞力費に對する國庫補助の恩典は。「此等地方に於ける失業者緩和に寄與すること大なる場合に於ては他の地方」にも及ぶことに其の範圍を擴張せられた。末尾に掲げた通牒（昭和五年五月二十二日發社第六九號內務大藏兩次官通牒）を參照乞ふ。

全縣下の失業者は、僅に三千人に過ぎぬ山梨縣當局が失業救濟事業として、百萬圓の工費豫算を以て、富士五湖に沿ふ延長十五哩の國道八號線の改修工事を起興して、東京の失業者を救濟しようと計畫した。十數萬に餘る失業勞働者の、救濟にあへぎ切つてゐる東京府、市の當局は、時節柄一服の淸凉劑を惠れたかの樣に喜んでゐる、世智辛い今日、山梨縣當局が隣保扶助、相互救濟の美しい企を以て、都市失業者の地方異動の先鞭をつけられた努力に對して、滿腔の敬意を表すると共に、帝都の隣縣千葉、埼玉、群馬地方當局の猛省を求む。（德田生）

因に失業救濟として起興する事業の特典は、勞力費に對して二分の一の國庫補助あるは勿論、之が起債に對しては、他に優先して低利資金の融通を受くることにある。

〔附〕左記に昭和五年度に於て確定したる失業救濟事業の概要を掲げて參考に供す。

昭和五年度失業救濟事業計畫概要

公共團體名	事業種目	事業施行期間	事業費豫算額	勞力費豫算額	勞働者使用延人員	一日平均使用人員	國庫補助豫算額	起債額	低利資金融通額
東京府	道路河川埋立	自五年四月至六年三月（自五年認可）	二、〇一四、六九〇円	四一三、八四八	一八八、〇七五	五二二	—	一、九七四、〇〇〇	一、九七四、〇〇〇
同	目黒川改修埋立	至六年三月	一、三七九、六四〇	三五七、五四七	二二二、〇一九	五八一	—	一、三七九、六四〇	一、三七九、六四〇
大阪市	高速度鐵道	自五年四月至六年三月	四、二七九、〇〇一	一、四九三、〇〇〇	七九九、六一七	二、一九〇	—	三、一四三、三〇〇	—
横濱市	瓦斯事業	自五年四月至六年三月	六七〇、〇〇〇	一八七、七五五	八五、九一六	二三五	—	七〇〇、七〇〇	—
戸塚町	上水道敷設	自五年四月至六年三月	一三八、二五〇	三五、一六四	一八、二九三	五〇	—	一三〇、〇〇〇	—
巣鴨町	下水道築造	自五年四月至六年三月	三九七、一九三	一〇八、三三三	五〇、三八二	一七三	—	三二〇、〇〇〇	—
名古屋市	道路新設	自五年四月至五年十二月	五三一、一二二	一二六、一五六	八〇、四二〇	二三九	—	五三三、〇〇〇	五三三、〇〇〇
同	下水及側溝	自五年四月至六年三月	二四七、四〇六	一二五、二三六	七九、二三六	八七一	六二、六一八	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
同	下水擴張（運動場ヲ除ク）	自五年七月至六年四月	一、二四七、九四四	四三六、八七	二七四、四三八	九一三	二一九、九七四	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
神戸市	道路溝渠護岸河川	自五年四月至六年三月	三一八、六九八	一〇八、二八一	六四、一八七	一七八	五四、一四〇	二六四、五〇〇	二六四、五〇〇
江戸川上水町村組合	上水道擴張	自五年四月至六年三月	八七五、四〇五	二六二、七五二	一三五、一一八	四五〇	一三一、三七六	五七七、〇〇〇	五七七、〇〇〇
京都市	下水道敷設	自五年六月至六年三月	一、三九〇、三二八	五〇三、三二八	三一五、九九七	一、〇三九	二五二、〇九三	一、〇九二、五〇〇	一、〇九二、五〇〇
大阪府	河川改修堤防改築	自五年七月至六年三月	一、〇一六、四四一	五三四、一六九	二七七、一七二	一、〇一二	二六八、〇八四	七四一、〇〇〇	七四一、〇〇〇
和歌山縣宮前村	廢川埋立道路改築	六ヶ月間	二九、三五二	二〇、〇〇〇	一九、二〇〇	一〇五	一〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇

東京市	官廳委托事務	自五年六月至五年十二月	八五、八六〇	八五、八一〇	五六、三四〇	三一三	八五、八六〇	—	—
東京府	官廳及公共團體委托事務	自五年七月至六年三月	八五、〇九〇	八三、二四一	五六、〇九三	二四七	八一、九一五	—	—
名古屋市	公共團體委托事務	自五年七月至六年四月	四三、二四五	三三、八九八	一三、六〇二	六一	二一、六二三	—	—
合計			一四、四七九、六六五	四、九一五、三八四	二、七一六、一〇五		一、一八七、六八三	一三、〇六〇、六四〇	七、七六六、六四〇

尙此の外東京府、大阪府、東京市、京都市、大阪市、神戸市、横濱市、名古屋市、門司市、小倉市、堺市、福岡市、巣鴨町、江戸川上水町村組合に於ける四年度繰越の事業費數百萬圓に及ぶものあり。

失業救濟事業ノ施行ニ關スル件

（昭和五年五月二十二日發社第六九號內務、大藏兩次官ヨリ各地方長官ヘ）

失業防止竝救濟ノ爲ノ事業調節ニ關シテハ客年十月三日發社第七九號ヲ以テ及通牒置候處爾今失業救濟事業ノ施行ニ關シテハ一層失業ノ防止竝救濟ニ有效ナラシムル爲左記各項ノ通取扱ハルル事ト相成候條御含ノ上管內ノ失業狀況ニ應シ適當ノ御措置相成度依命此段及通牒候也

記

一、昭和四年十月三日付發社第七九號（以下單ニ通牒ト稱ス）第三項及第四項ハ六大都市關係公共團體其ノ他救濟ヲ要スヘキ失業者特ニ多キ地方ニ限リ適用セラレタルカ今後此等地方ニ於ケル失業ノ緩和ニ寄與スルコト大ナル場合ニ於テハ他ノ地方ニ對シテモ之カ適用ヲナスコト

二、水利組合、北海道土功組合、耕地整理組合、土地區劃整理組合、森林組合ノ事業ニシテ失業救濟ニ寄與スルコト大ナルトキハ必要ニ應シ事業ニ要スル費用（補助轉貸ノ場合モ含ム）ニ付起債ヲ詮議スルコト

三、通牒第四項ニヨル失業救濟事業ハ國產材料ヲ相當多量使用スルトキハ當該事業直接ノ勞力費カ事業費總額ノ三割ニ滿タサル場合ニ於テモ之ヲ認メ又工事施行上已ムヲ得サル場合ハ請負ニ附スルコトヲモ認ムルコト

四、通牒第三項ニ依ル失業救濟事業ニアリテハ勞力費ハ事業費

ノ二割以上タルコト但シ國産材料ヲ相當多量使用スル場合ハ前項ニ準シ失業救濟事業トシテ之ヲ認ムルコト

◎自動車專用道路の認可二件

豫て靜岡縣知事より內務大臣に禀伺中であつた駿豆鐵道株式會社出願自動車專用道路開設の件は七月三日付を以て、又長野、群馬兩縣知事連署を以て禀伺中であつた箱根土地株式會社出願同上の件は同月二十五日付を以て何れも認可せられた。

兩者の起業概要は左の通りである。

○駿豆鐵道株式會社の分

目的　箱根を通ずる南北道路を開鑿、熱海及御殿場方面相互連絡の便を拓く

起點　靜岡縣田方郡函南村字國見嶽　熱海峠

終點　同　駿東郡富士岡村神山　長尾峠

延長　二十粁一二

幅員　六メートル

工法　適當なる材料を以て鋪裝

事業資金及出資方法　四十五萬圓　借入金

建設費に對する益金の割合　〇、一五九

○箱根土地株式會社の分

目的　土地經營の附帶事業

起點　長野縣輕井澤町沓掛

終點　群馬縣嬬戀村鬼坤出岩

延長　十一哩半

幅員　四間

工法　防塵的簡易鋪裝を爲し將來交通量の增加したる時期に適當の鋪裝をなす

事業資金及出資方法　十萬圓　未拂込株金に依る

建設費に對する益金の割合　〇、〇二九―〇、〇八六

◎第五回道路職員講習會の狀況

本會の主催した第五回道路職員講習會は、豫定の通り去

る二十一日から内務省社會局大會議室に於て開會した、財政緊縮のことが強調され官吏々員の旅費までの節約が力說されてゐる折柄なので、豫定の聽講者を得ることは或は困難ではないかと氣づかはれたが、事實は夫れを裏切つて豫定の百五十名を得た。

例に依つて水野會長の開會の挨拶があつて、道路の經濟上の效用から說いて歐米道路の現狀と我國の夫れとを比較して道路改良の必要なことを力說され、夫れの發展を助勢する爲に本講習會を催した理由を說明され聽講者の勉勵を希望された、開會式に臨席した本會監事貴族院議員橋本圭三郎氏は、國產品奬勵の必要を力說して國力發展の爲に獨逸人等の採りつゝある國產品使用の實況を論じて、我國民も自國品使用に自覺すべきことを力說して聽者に多大の感動を與へた。

講習科目は道路事務と道路技術との兩方面に亙て居て、事務の方面では內務省土木局長三邊長治氏の土木行政を始めとし、道路行政は內務省道路課長淸水良策氏、都市計畫に就ては內務事務官兒玉九一氏、交通整理に就ては警視廳交通課長藤岡長敏氏が擔任した、三邊土木局長の土木行政は、國政に於ける土木行政の地位と其の作用を法學的に論述して技術家にも夫れが判り得るやう詳細叮寧に說述され淸水道路課長の道路行政は專門家だけあつて微に入り細に亙り道路法を說明され、兒玉事務官の都市計畫は、氏が內務省都市計畫課の事務を見るやうに爲つてから研究された氏獨特の見地に於て都市計畫の概要を說明され、藤岡交通課長の交通整理は、氏が這般歐米各國の整理實況を視察し得た見地に於て、新方法と新理論とを講述し聽者を醉はしめた。

道路技術の方面に於ては、道路材料に關し內務技師藤井眞透氏が、職務上內務省土木試驗所で體驗した知識と材料とを基礎として道路工事執行の實務に必要な諸點を縷述し鋼橋に關しては內務技師靑木楠男氏が其一般に付說明し、隧道に關しては鐵道技師星野茂樹氏が理論と經驗とに就て詳細な說明を與へ、道路構造に就ては內務技師菊池明氏、鐵筋混凝土に關しては內務技師永田年氏、道路鋪裝に就て

は內務技師岩澤忠恭氏が、何れも內務省に在つて擔任する專門科目に關し講述したので、道路技術の實務に從事する聽講者を指導する所頗る多かつた。

右の外科外講演として、內務省土木試驗所長の物部博士が、例の地震感から道路技術の應用に就て講述し、內務技監の中川博士は道路の技術感に就て說述した、其の他這般歐米を視察した東京府の藤田技師、神奈川縣田邊土木部長、長崎縣中川土木課長の三氏が歐米に於ける道路や土木事業の視察談をした。

以上講演の外、聽講者を實地に就て指導する必要があるので工事完成した復興事業を視察して其の計畫の概念を說明し、又は日本石油會社やビチュマルス乃至は大倉組等をして道路鋪裝工事を執行せしめて參考に供した。

會期は僅に一週間であつたが、以上の實績に依つて本會所期の目的を達し、去る二十六日無事に終了して左記聽講者に修了證を渡した、閉會式後聽講者に依つて發起された謝恩會を小石川植物園で開き和氣靄々裡に終つた。

北海道廳
松崎　勉
佐藤　嘉則
京都府
西山　弘資
藤澤　啓四
大阪府
藤井彌太郎
木下　芳三
福井　昇
井上　仁三
神奈川縣
藥師寺斧七
古屋　從迪
井上　政勝
廣井　虎吉
鴻上秋三郎
兵庫縣
松田愛太郎
濱田文路二
榊原　督雄
吉本友次郎
陰山　三郎
長崎縣
秋月　光一
長淵　嚴
土井　實
新潟縣
眞柄滿一郎
石村　武一
埼玉縣
三井　輝夫
山下　芳丸
赤石　忠文
群馬縣
荒井　力
小柳　喬爾
大井與三郎
井上太三郎
千葉縣
松田　博文
鈴木　榮次
池山　保二
茨城縣
小沼　恭
松本　敬三
畠山　瑞
長島　潼
榊田　敏之
栃木縣
有馬　博雄
篠田壽三郎
成合　義賢
伊藤　功
伊藤春太郎
奈良縣
近藤　軍治
上野　利作
福岡　芳雄
大河原廉夫
兒玉　二三
長岡　末光
松尾　直三
大宮　喜衛
石垣　薰
加藤　政雄
勝山　章
長谷川　清
八木　鐵雄
岩井　眞澄
靜岡縣
鈴木　直彥
前田龜太郎
高塚豐太郎
前川鬼子男
澤山　佐平
岡本　賢二
岐阜縣
堀野　新
大野　養吉
三上　三郎
福井縣
竹內　繁藏
平田　小市
楠　仙之助
山中　清美
青木　安治
唐澤　金吾
片岡　久
金山　豐二
猪股　三良
福田　義雄
八木　茂彌
岩手縣
高柳　賢市
津下修一郎
柳田　直治
後藤　新藏
永岡　退藏
塚越塚三郎
青森縣
大庭　義夫
三浦　義美
山形縣
高木　軍一
和歌山縣
前田　長治
山路　孝高
酒井　元照
德島縣
篠原　九平
萩原　雅介
橋詰　清吉
石川縣
中島　啓文
堀岡喜太郎
富山縣
近藤　三次
米澤　重平
中林　清二
鳥取縣
福田　義雄
岡山縣
楠　仙之助
山中　清美
青木　安治
唐澤　金吾
堀岡喜太郎
富山縣
近藤　三次
米澤　重平
中林　清二
鳥取縣
福田　義雄
岡山縣
橋詰　清吉
石川縣
中島　啓文

香川縣　藤本　文吾
豐島　正一
宗本　德市
赤松　明次
愛媛縣
丸浦　忠直
平田　良敏
鹿野　知行
高知縣
尾藤　富永　和男
後藤　護

大分縣　野上　藤造
中澤　源重
稻益　寅雄
江良　豐城
佐賀縣
南里　彌作
伊東　定
橫尾　里見　好一
井上　孝行

宮崎縣　大藪初太郎
篠原　佑三
牛島　久男
參謀本部
三原　敏男
陸軍技術本部
三好　良作

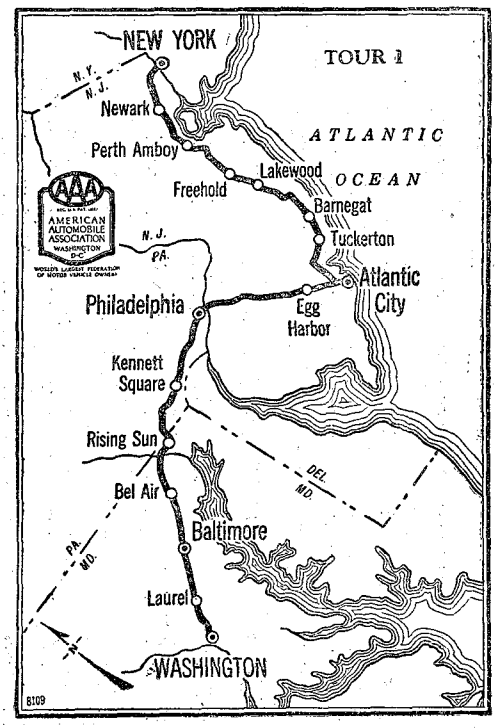
◎萬國道路會議視察旅行

米國政府の主催にかゝる第六回萬國道路會議が來る十月六日から一週間首府ワシントンに於て催さるゝが會議終了後アメリカ自動車協會（A.A.A.）の好意による米國東部及び中西部地方の視察旅行が行はれる。

この視察旅程は三班にわかち第一班はフイラデルフイアを中心として主として米國東部地方を第二班は更に西行してナイアガラ瀑布にまで至り又第三班は遠く中西部まで及びシカゴデトロイト・クリーブランド等の主要都市を視察するものである。

此道路會議に列する世界各國の代表者數百人は此何れかの班に參加することにならうが此旅行の大部分がアメリカ一流のバスを利用する筈であるから米國繁榮のシンボルと見做されてゐる道路網を視察し又驚異的な道路運輸の發達を研究するには又とない機會であらう。以下各班の旅程につきその概略を記して參考に供することにする。

第一班



十月十三日。ワシントンをバスにて出發。

ベル、エヤー晝飯。バス旅程二時間半六四哩

フイラデルフイヤ著　〃　〃　三時間半八〇哩

十月十四日。午前中市中見物午後バスにて出發。

アトランチック、シチー著。バス旅程二時間半六二哩

十月十五日。市中及海岸見物。

十月十六日。アトランチック、シチー出發。

レーキ、ウッド晝飯。バス旅程二時間半六九哩。

紐育市著、　二時間半六三哩。

右旅程に示した通り第一班は全行程に亙りバスを利用しながら道路を視察するもので延長三三八哩に及んでゐる。ワシントンは人も知る米國首府大統領官舍ホワイトハウスのある所であるがこゝを出發して第一號國道をたどり一五〇哩のフイラデルフイアに到著して同市一流のホテルベンヂヤミンに宿るのである。フイラデルフイアは實に米國發祥の地で建國にあたつて鳴らされた自由の鐘は今尚國寶として陳列され歷史を物語つてゐる。

翌日は更に又バスでアトランチツクシチーまで六〇哩を

飛ばすのであるが此途中が有名なホワイトホースパイク道路で延々六〇哩の間六〇尺幅の混凝土道が續いてゐるのは少なからざる偉觀である。

アトランチツクシチーは米國第一流の海水浴場で又昔から一番贅澤な遊覽地とされてゐるが玆で宿るハツドンホールと云ふホテルの善美をつくしてゐることなどは全く驚異の外はない。第三日目は一日ゆつくり同市でくつろいで市內を見物し翌第四日に百三〇哩北行して紐育市に入るのであるが途中の沿線は昔から開けた所で道路としては餘り感心したものではないが歷史的に價値ある所が少くない。

第二班

十月十三日。ワシントンをバスにて出發。

ハリスブルグ晝飯。バス旅程　四時間一一四哩

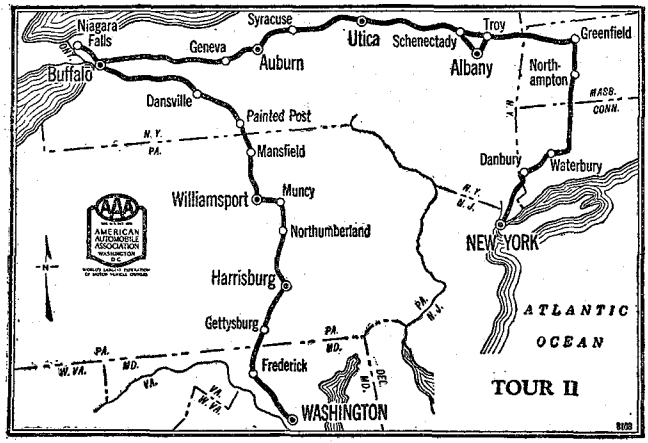
ウイリアムスポート著　〃　四時間九五哩

十月十四日。ウイリアムスポートをバスにて出發

バツフアロ著　バス旅程八時間二〇八哩

十月十五日。バツフアロをバスにて出發。

ナイアガラ瀑布著。　バス旅程一時間二四哩



終日ナイアガラ瀑布及附近探勝

十月十六日。ナイアガラ瀑布發　ユチカ著。バス旅程八時間半二一八哩

十月十七日。ユチカ發。アルバニーにて晝飯。四時間九四哩グリンフイールド著。四時間八三哩

十月十八日。グリンフイールド發紐育市著。バス旅程八時間一一一哩

此第二班の旅行も全部バスによるものであるが行程六日間一〇一七哩に及ぶものであるから第一班より更に興味の深いものがあらう。その視察範圍は主として中西部に近い山丘地方であるから起伏地道路の研究には特に有意義であると思はれる。

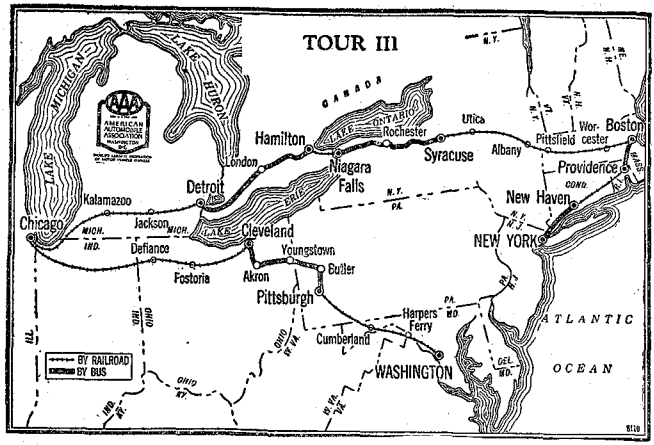
ワシントンを出ると直ちに西行してアレゲニー山脈にかかりペンシルベニア州ハリスブルグまで一一四哩は全く山間で都市らしい都市は全くない。ハリスブルグはペンシルベニア州の首府になつてゐる。晝飯後更に北行してウイリアムスポートに到著一泊するのであるがこゝも稍同じ様な山間都市である。

翌日は二百哩とばして一躍バッツフアロに著くのであるが此町はイリー湖に面した工業都市で始めて町らしい町を見るわけである。三日目はナイアガラ瀑布の見物に費し五、六日目を又山丘地方の旅行を經て紐育市に入るのである。此第二班の旅行は六日間共道路を見るのが主であつて見物よりも寧ろ實質的なルートである。

十月十二日夜。汽車にてワシントン出發。

十月十三日。午前ピツバーグ著。終日市中見物。

第三班



十月十四日。ピツツバーグをバスにて出發　アクロン著。　バス旅程五時間一二八哩

十月十五日。アクロンをバスにて發　クリーブランド著。　バス旅程一時間半三四哩

十月十六日。クリーブランド汽車にて發。

十月十七日。シカゴ著。

十月十八日。市中見物。

十月十九日。シカゴ汽車にて出發。

十月二十日。デトロイト著。

十月二十一日。市中見物。

十月二十二日。デトロイトをバスにて出發。　ハミルトン著。　バス旅程七時間二〇三哩

十月二十三日。ハミルトン汽車にて發。　ナイアガラ瀑布著。

十月二十四日。ナイアガラをバスにて發　シラキウス著。　バス旅程七時間一七八哩　同夜シラキウスを汽車にて發。

十月二十五日。ボストン著。

十月二十六日。ボストンをバスにて發。　プロビデンス著。　バス旅程二時間半四四哩　プロビデンス汽車にて發。　ニウハーベン著。　ニウハーベンをバスにて發。　紐育著。　バス旅程四時間八〇哩

十月二十七、二十八日。紐育市中見物。

第三班の旅程は本視察旅行中で最も大なるものでバス及汽車の兩交通機關を利用し日程十六日間に米國東部及中西部の主要部を大觀せんとするものである。その距離が長い關係上全部をバスで通すことは出來ないが之はやむを得ない所であらう。